

下関の亀山宮に能面奉納

防府の松田さん、5面目



防府市の能面師、松田龍仁さん(73)が13日、下関市中の町の亀山八幡宮(竹中恒彦宮司)に能面を奉納した。同八幡宮に奉納するのは2012年以來、5面目。面は10月の亀山能で一般公開される。

奉納したのは若い女性の美しさや清純さを表した能面「小面」。能の流派の一奉納した能面を手にする松田龍仁さん(左)と竹中恒彦宮司(右)13日、下関市

つ、金剛流宗家が所有する名物面「雪の小面」を基に制作した。能に傾倒していた豊臣秀吉が愛したとの由来があるという。

松田さんは同八幡宮で毎年秋にある下関市の無形文化財の神事能「亀山能」を07年に初めて見た時に感動し、奉納される演目の一つ「翁」に必要な面など4面を08〜10年と12年にそれぞれ奉納。今回は、秀吉が文禄の役にあたり同八幡宮を参拝して能を奉納したのが亀山能の始まりとされることから、ゆかりの面を選んだ。

同八幡宮で奉納式があり、松田さんは「『雪の小面』は能を代表する面。後世に長く受け継いでもらいたら」と話した。

亀山能は西日本有数の神事能で、今年は10月19日に開かれる。